



ご挨拶

軽米高等学校同窓生の皆さまにおかれましては日頃より同窓会活動へのご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

コロナ感染症が2類から5類へと変更されたことにより、6月9日には本部で総会、懇親会を開催出来ました。また、6月24日には東京支部、11月24日に九戸支部、12月3日に八戸支部が総会開催、久しぶりに同窓生の皆様方との再会で相互の親睦・交流が図れたことをとても嬉しく思っています。盛岡支部からは令和6年2月16日開催の総会へのご招待を頂き、心待ちにしているところであります。

年に1回の会報の発行ですが、生徒数の減少により同窓会会計も厳しさを増し、ここ数年はPTA会報と合冊発行し、同窓会の活動や在校生の皆さんの素晴らしい活躍を報告させていただいております。

軽米町でも人口減少や少子化が急速に進んでおり、現在の高校再編計画では2年連続して40人を下回ると学級減の対象となりますが、軽米高校はすでにこの要件に該当しており、新年度の軽米高校への入学予定者数も1学年2学級を維持するために必要な40人を下回る厳しい状況であります。このような状況を踏まえ、12月22日には軽米町長、軽米高校を応援する会、同窓会により岩手県教育委員会に対し、中高一貫校である軽米中学校に現在1学年40名以上の生徒が在籍していることに鑑み、早急な学級減を行わないよう要望活動を行いました。軽米町では子育て支援日本一を目指し、

保育料の完全無料化、中学校まで給食費の無料化を実施し、18歳までの医療費の無料化、路線バス通学者へのバス運賃の助成、副食給食の提供（給食費の一部助成）、外部講師による学習会開催、部活動支援、英語検定・漢字検定・数学検定受験料の助成など子育て世代の負担軽減に力を入れています。

ふるさと納税により故郷軽米を応援していただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

このように様々な施策を展開しておりますが人口減少・少子高齢化に歯止めがかからず、今後数年で軽米高校の存続が危ぶまれる事態が想定されます。高校の存続が軽米町の活力の源泉であり、高校生の姿が町から消えてしまうことは何としても阻止しなければなりません。皆様のお力で1学年2学級40人以上を維持出来ますよう、町、町民、同窓生の力強いご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びに、母校のたゆまぬご発展と同窓生の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

同窓会長（第27回生）

松浦満雄

支部会だより

東京支部

東京支部・支部長(第34回生) 畑澤 康 弘
柔道部 長倉出身



令和5年度軽米高等学校(第58回)東京支部総会及び懇親会が6月24日(土)アートホテル日暮里ラングウッド『丹頂』で開催されました。天気も良く暑い31℃でした。

東京支部のモットー『繋がり・絆・癒し・再会に笑みを』母校から亀山丈校長先生、事務局担当大家先生、さらに軽米からの出席者も8名、今回は初コロナ同窓会を実施いたしました。軽米町に縁のある方、今までの同窓生枠を超えて6名出席(普代村ふるさと会・姫が森牧場会長・田澤工務店取締役)出席者39名で受付にて関東在住の方には、東京支部より古館製麺所の麦かけ・そばかけ1袋2人前をサプライズプレゼント、また軽米から来た方には虎屋の一口羊羹をサプライズのお土産に皆さんおおいに喜んで頂きました。軽高常識クイズ大会では、参加者全員にハズレなし景品・賞品が盛りだくさんあり一喜一憂大いに盛り上がりました。

続いてカラオケ大会なんと同窓会員にセミプロ歌手男女(田畑・前川さん)がおります。生徒さんたちに教えているだけあってすばらしい歌唱力、1名ずつ壇上でオンステージもちろん一般会員の方もリクエストして頂き盛り上がりました。時間がなく全員に歌ってもらう事ができなく残念でした。さらに28期生・山館先輩のウクレレ演奏「さくら」「ふるさと」の素晴らしい音色に聴き入り心を静めて今回、新企画「この場を借りて皆さんに報告・発信したいコーナー」では、2023年4月23日に軽米町議会議員選挙で当選された4名様からも各自の抱負を語って下さいました。同窓生の旦那さんが有名推理小説家の方はCM兼ねて紹介なみにお名前は前川博さんです、皆さんも検索してみてくださいませ。

私ごとなのですが今回は新支部長になり初開催なのですが、ぜひ応援に行きたいと軽米町から大けがをした千葉先輩が車椅子で応援、出席して頂き有り難い繋がりを感じ感謝感激いたしました。メインバンドの校歌斉唱は、松浦同窓会本部会長が壇上で素晴らしい応援団のエールを行っていただきこの時ばかりは皆さんの心は一つ懐かしみ、繋がり、感動を頂きあっという間に予定の3時間が過ぎ、なごりを惜しみながらの閉会となりました。次回にも、みんな健康維持して、元気に集まる事を約束して散会盛会裡に幕を閉じました。

今回は令和6年6月22日(土)開催予定です。今年参加できなかった方は是非、ご検討いただければ幸いに存じます。



九戸支部

事務局(第30回生) 池田 廣 志

令和元年11月より事務局を担当させていただいております。当九戸支部は平成3年5月に発足以来、歴代支部長、山口前事務局長の下、令和元年まで毎年欠かさず支部総会を開催してきました。しかしながら、コロナ禍の感染拡大防止の状況下で令和2年より支部総会の開催を中止し、書面議決の対応をとってきました。

令和5年に入り感染拡大終息の兆しが見えてきたことから役員協議の上、支部総会を開催することとし、令和5年11月24日に亀山校長先生、松浦会長、中村副会長、茶屋監事、事務局大家様のご出席を賜り、九戸支部会員10名、総勢15名にて久しぶりの支部総会を開催しました。亀山校長先生、本部事務局より学校及び同窓会の状況をご報告頂き、総会の議事のご承認を頂きました。総会後の懇親会は、久しぶりの再会でもあり大変にぎやかで楽しい時間となりました。後輩諸君の活躍に目を細めつつ、話は自然と在校当時の話へ。当時の懐かしい話や諸先輩の武勇伝(?)に大盛り上がりでした。ご出席いただいた皆様から「また来年もこうして集まりたいね」とのお言葉をいただき支部総会開催にご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

九戸支部は決して大きな所帯ではありませんが、高校、本部のご指導を頂きながら後輩諸君の活躍を見守っていきたくと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



八戸支部

(第27回生) 於 本 一 則

明けましておめでとうございます。

正月早々、同期の藤原正幹氏より連絡があり、兼田茂人八戸支部長の意向により同窓会報に寄稿してほしいとのこと、二つ返事で、この投稿を引き受けさせて頂きました。

私は、軽高卒業後は大学に進み、郷里に帰り軽米町で働いていまして、現在は八戸市に住んで、岩手と青森県境を越えて毎日通勤しています。

軽高卒業後について振り返ってみれば、実に様々な出来事がありました。向川原地区の山林火災、中心街の大水害そして東日本大震災と災害ばかりが思い浮かびます。その出来事に私達は、それぞれの立場でその対策に全力を尽くしてきて、今の軽

米高校、軽米町があると思います。

軽高といえば、「躍進軽米」、「松柏」そして「風雪に耐え、大いなる未来を拓かん」等の言葉が思い出されますが、現在の在校生が「気概をもって学業に励んでいるのか」、響いてこない様な気がします。最近ではハイキュー!!の聖地として大町商店街に「鳥野高校」の幟が立っていたり、全国的な傾向とはいえ少子高齢化・人口減少は、地方の片田舎では住民生活に大きな陰を落としていると感じます。これらの状況の下で私達はどうか対処していくべきか、しょうがないと片付けられないで、「今、何が大事で、何をすべきか。」を常に自問自答しながら明日に向かって生きていくことが大切だと強く感じています。

軽高先輩諸君の活躍もさることながら、一方では軽米町外の学校に進学していく生徒も多いと伺います。今一度立ち止まって、岩手県立軽米高校の今後の進むべき方向について在校生や同窓会の皆さんと語り合いたいと思っています。また、同級生や良き先輩は人生の朋友であり、師となります。青春時代の出逢いを大切にしてもらいたいと思います。

今は、昨年までのコロナ禍で組織がガタガタになったり、皆の心が消極的で不安定になってしまっています。軽高の教育現場も大変だったでしょう。同窓会を通じて先輩や後輩と世代の枠を越えて集まり、お互いに語り合しましょう。八戸支部もまだまだ同窓会への参加者が少なく、この場をお借りして、同窓生の皆さんに参加を呼びかけたいと思います。

一会員の独り言でしたが、母校の発展と同窓生の皆様方のご活躍をご祈念申し上げ、終わりといたします。



盛岡支部

(第32回生) 木村 久

盛岡支部事務局として平成22年から務めております。支部総会は、コロナ禍を経て、令和2年2月7日以来4年ぶりの開催となり、このたび支部事務局を後輩に引継ぐ予定です。

当方は、昭和57年3月に軽米高校を卒業し、昭和61年4月から県職員として38年勤務し、現在は出納局で働いています。還暦を迎え、令和5年10月に同級会が開催され42年ぶりに再会し、60数人が集まりました。この会は、東京支部の有志の「是非集まろう」との強い思いから開催されたことを当日知り、その思いと行動力に感謝しております。長い間会わなくても高校時代の思い出を話す姿はお互いにオジサンになってもイキイキしていました。

当日は、熊谷昭三先生と金沢広利先生に來賓として出席いただき、高校在学中の記憶はおぼろげですが、金沢先生には平成26年度から28年度まで当方が県教委で高校再編を担当し県立学校を訪問した際に、ご指導ご助言いただいたことから思い出を

語り合う場となり、「軽米高校」の縁を感じております。他の支部の様子は同窓会報でしか分かりませんでした。ココのつながりも大切であると感じているところです。

盛岡支部は年1度の総会が主な活動ではありますが、軽米高校を卒業された皆様には、是非、近くの支部総会に参加いただき、年代を超えた交流の機会にして頂ければ幸いです。



令和5年10月8日 祝 遷 暦 を 祝 う 同 窓 会 於 八 戸 プ ラ ザ ナ ホ テ ル

盛岡支部

(第38回生) 木野下 博 道

私の勤務する岩手県警には、軽米町に関係する職員で構成する「県警軽米会」なる会があり、現在はOBを含めて35名が在籍し、年に一度、懇親会を開催するなどして結束を高めています。

今回、県警軽米会の一員で軽米高校卒業生(第33回生)の杉下明さんが、「岩手県民の警察官」を受賞したことをお知らせします。「岩手県民の警察官」は、長年にわたり地域の安全に大いに貢献した功績をたたえ、年に一人が表彰されるもので、令和5年が65回目となります。

杉下さんは、久慈市(旧山形村)の出身で、軽米高校を昭和58年3月に卒業して警察官になり、現在は盛岡東警察署松園交番で勤務しております。高校時代は、学生寮に住みながら通学し、勉学に励むとともに柔道部で活躍しました。警察官になってからは、県内各地の交番や駐在所を中心に勤務し、地域の安全と平穏な生活を守るため、日夜最前線に立って地域安全活動に尽力してきました。そのような活動が評価され、県内2千人を超える警察官の中から選出されたものです。

この受賞は、本人はもとより、県警軽米会としても大変栄誉なことで、会員一同の励みにもなっております。

今回の杉下さんの受賞を皆様方にお知らせするとともに、一人でも多くの後輩が警察官を志していただければ幸いです。



同窓会 事務局だより

〈令和5年度 同窓会総会〉

ここ数年コロナ感染症の影響で、同窓会活動を自粛しておりましたが、6月9日(金)に瀧村屋さんにおいて、令和5年度本部総会及び懇親会を開催いたしました。懇親会は4年ぶりの開催となり、皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。また、各支部においても総会・懇親会を開催することができ、従来の活動に戻ることができました。70周年に向けた更なる歩み続け、母校が発展することを皆さんと祈りました。ご多忙にもかかわらずご参加くださいました皆様におかれましては、この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。



〈令和5年度 活動報告〉

- 令和5年4月7日(金) 入学式
- 5月16日(火) 常任理事会
- 6月9日(金) 同窓会総会(瀧村屋)
- 24日(土) 東京支部総会(アートホテル日暮里ラングウッド)
- 11月24日(金) 九戸支部総会(お食事処なかつる)
- 12月3日(日) 八戸支部総会(レストランきの字)
- 令和6年2月16日(金) 盛岡支部総会(エスポワールいわて)
- 2月29日(木) 同窓会入会式(卒業記念品贈呈)、会報50号発行



〈令和5年度～令和6年度本部役員〉

- 会長 松浦 満雄
- 副会長 中村 正志、千葉 千賀、小林 福正
- ” 小林 浩、江刺家 雅弘
- 監事 茶屋 隆、木戸口 春彦

